

令和6年度第2回西成特区構想エリアマネジメント協議会 こども・子育て専門部会 議事要旨

1 日 時 令和6年11月18日(月) 午前10時から午前11時40分まで

2 場 所 西成区役所4階 4－8会議室

3 出席者

【有識者】

村上委員（大阪大学）、永橋委員（立命館大学）、水内委員（大阪公立大学）

【地域メンバー】

甲斐田委員（西成区社会福祉協議会理事）、莊保委員（わが町にしなり子育てネット代表）、川辺委員（NPO法人西成チャイルド・ケアセンター代表理事）、小林委員（NPO法人釜ヶ崎支援機構事務局長）、吉次委員（梅南中学校長）、長谷委員（千本小学校長）

【西成区】

宇野子育て支援担当課長

【大阪市】

高島企画部企画課事業調整担当課長代理、赤井企画部企画課担当係長（こども青少年局）、鷹羽指導主事、松田指導主事（教育委員会事務局）

4 議事要旨

（1） 今後のプレーパークの方向性について

「子育てとあそび場に関する意識調査実施報告書（案）」について、事務局の説明後、意見交換を行った。

- ・夏休みの平日開催について、子どもの数が減るのは、共働きやシングルマザーなど保護者が同行できないことが考えられるため、開催場所は巡回型の方が良いとも思うが、定点開催だからこそ、子どもたちで誘い合うことで、来場者が増えることにより認識してもらえるメリットがあると思う。
- ・放課後や土日等の休校日において公園内で他校生とのトラブルがあれば、すぐに学校の先生を呼ばばいいと思われていることが多い。遊び場で危険行為に及ぶ時は注意をしたり、けがの手当てをしたり、いざというときに警察を呼ぶなど子どもたちが安全に遊べるように常駐している大人の目が増えることが良いと思う。
- ・常駐スタッフについて、地活協など西成区全体でバックアップできる体制を考えていけるようになれば良いと思う。
- ・調査回収率が10%と低く、結果に反映されていない家庭の意識も重要になってくる。要対協ケース、仕事等で多忙な保護者、子どもに関心が無い方は回答していない可能性がある。要対協ケースの児童、生徒は、プレーパークにニーズがあると思われる。
- ・外あそびの内容調査結果で携帯ゲームは1件と少ないが、公園で携帯ゲームで遊んでいるのをよく見かけるので、保護者が把握していないだけであると思う。

【今年度の開催状況について】

- ・にしなりジャガピーパーク：もと松之宮小学校（24回）、もと今宮小学校（24回）、区内公園等（6回） 土日祝、長期休みの平日に実施

- ・ジャガピーわくわくクラブ：区内各小中学校1回程度 全18回開催
校区内の公園や学校施設などにも来て欲しいという意見があるが、公園開催は、天下茶屋公園、南津守中央公園、山王みどり公園での開催に限られており、10校区全ては回れていないのが現状である。

【ジャガピーパークについて】

- ・西成特区構想の柱として、子育て世代を誘引・定住させることを目標としている。人口動態より、0～5歳、保護者世代は20代後半から30代の世帯が転出超過であり、子育て世帯が小学校入学までに転出する傾向があるため、長く定住していただくためにも区外市外の方から見て魅力的な冒険のあそび場を作っていきたいと考える。
- ・調査結果から、公園開催を増やしていきたい。
- ・もと松之宮小学校についてマーケットリサーチが始まっており、今後継続してジャガピーパークとして利用できるか未定。西成区には他にも未利用地があるので活用を考えていきたい。
- ・クロス集計より見えてくる内容について深堀し、「新たなあそび場」について具体化していきたい。

(2) その他

①ヤングケアラーに関する寸劇とアンケートの実施について

「ヤングケアラーの現状と支援に関する調査 2022～児童福祉領域の支援者調査～」や「大阪市西成区の小中学校におけるヤングケアラーの現状と把握・支援に関する調査 2023～公立小中学校の教員調査～」の結果より、学校の教員でも気づきにくく、顕在化していないヤングケアラーが存在している可能性があるため、西成区内全小中学校で、道徳の時間を利用し、ヤングケアラーに関する寸劇を行い、理解を深めたうえで、アンケート調査を実施したい旨委員より提案があった。

- ・当会議で決定する権限があるのか？
⇒令和3年の第2回の当会議で、ヤングケアラーに関するアンケート実施の可否について議論を行っており、今回も当会議で決定することが妥当である。
- ・教育委員会事務局としては、寸劇等の実施の可否については学校ごとに決めていただく内容であると考え。
- ・ヤングケアラーがあたりまえとなっていて、子どもたちが気づかない状況は怖い。また、教員の知識も濃淡があるため道徳の時間を利用して学習することは良い取り組みと考えるが、やり方については各学校で考えていきたい。
- ・年度末に次年度の教育課程を決めていくので、3月末に方向性が決まっていれば次年度の実践は可能である。
- ・教員が演者になることは、練習もありワークライフバランスの観点も配慮する必要があるため、教員が演者にならない動画の配信なども手法の1つであると考え。
- ・子どもたちから信頼されている教員が演者になることで、子どもたちの心に響きやすいが、教員が演者として登場することは絶対ではない。こどもの里の職員が演者となり演じることも可能。

※まずは小、中校長会で検討し、第3回目の当会議で方向性を決定する。

②令和6年度エリアマネジメント協議会 こども・子育て専門部会のスケジュールについて
次回第3回は2月頃に開催予定、今回の案件（下記2点）を継続して議論する。

- ・今後のプレーパークの方向性の確認
- ・ヤングケアラー啓発に関する寸劇とアンケート実施の方向性について